

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
母性看護学概論Ⅰ (対象の理解)	1	1	後期	看護師・助産師	専任教員	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験, 学修意欲, レポート			教科書・参考資料	母性看護学概論 /医学書院	
概要	母性の発達過程、ライフサイクル等の母性の概念及び母性看護の範囲や特性を理解する。					
目標	1. 母性看護の変遷、現状を理解できる 2. 母子を取り巻く法律を理解できる 3. 人間の性と生殖、ライフサイクルと母性について理解できる					
回数	授業内容・計画					
1	1章 母性看護の基盤となる概念					
2	A 母性とは B 親子関係と家族発達 C セクシュアリティ(人間の性) F 母性看護のあり方					
3	3章 母性看護の対象理解					
4	B 女性のライフサイクルと家族					
5	5章 女性のライフステージ各期における看護					
6	A ライフサイクルにおける女性の健康と看護					
7	B 思春期の健康と看護					
8	C 性成熟期の健康と看護					
9	D 更年期・老年期の健康と看護					
10	終講試験					
留意事項						

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
母性看護学概論Ⅱ (母性保健)	1	2	前期	看護師・助産師・保健師	専任教員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する ・ 該当しない				講義形式(70)% ・ 実習など講義形式以外(30)%		
評価方法	筆記試験, 学修意欲, レポート			教科書・ 参考資料	母性看護学概論 /医学書院 国民衛生の動向	
概要	母子保健システムにおける母性看護の位置づけ、周産期の母児や思春期から更年期までの母性に対して理解し、個別的な援助に必要な能力を養う。 又、周産期の母児の看護を通して、生命の生育過程の脆さなどの特性を認知し、生命尊重の態度、価値観を養う。					
目標	1. 母性とは何かについて考えることができる 2. リプロダクティブヘルス/ライツを理解できる 3. 母性看護のあり方、必要な援助技術について理解できる					
回数	授業内容・計画					
1・2	2章 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 A 母性看護の歴史的変遷と現状 B 母性看護の提供システム					
3	6章 リプロダクティブヘルスケア A 家族計画 B 性感染症とその予防 C 人工妊娠中絶と看護 D ドメスティックバイオレンスを受けた女性に対する看護					
4	1章 母性看護の基盤となる概念 G 母性看護における倫理					
5・6	〔演習〕 新生児の観察・沐浴法					
7	4章 母性看護に必要な看護技術 ウェルネス看護診断の特徴と意義					
8～10	看護過程の実際① 妊娠期:看護過程の展開					
11～13	看護過程の実際② 産褥期:看護過程の展開					
14	まとめ					
15	終講試験					
留意事項						

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
母性看護学援助論Ⅰ (正常な妊娠・分娩・産褥、 ハイリスクな妊娠・分娩・産褥)	1	2	前期	医師	慈風会職員 2名	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験, 学修意欲, レポート			教科書・ 参考資料	母性看護学各論 / 医学書院	
概要	ハイリスクな状況とその特徴について理解すると共に、周産期の母児や思春期から更年期までの母性並びに胎児、新生児について理解する。					
目標	1. 妊娠の経過と妊娠から出産までにおこる異常について理解できる 2. 分娩の要素・経過が言え、分娩時におこる異常について理解できる 3. 産科処置、産科手術について理解できる 4. 産褥期の経過と産褥期におこる異常について理解できる					
回数	授業内容・計画					
1	医師:15時間(終講試験1時間含む)					
2	2章 出生前からのリプロダクティブ・ヘルスケア		A リプロダクティブ・ヘルスケアの必要性 B 遺伝相談 C 不妊治療と看護			
3	3章 妊娠期における看護		A 妊娠期の身体的特性			
4	4章 分娩期における看護		A 分娩の要素 B 分娩の経過			
5・6						
7・8	6章 産褥期における看護		A 産褥経過			
9・10	医師:15時間(終講試験1時間含む) 7章 妊娠・分娩・新生児・産褥の異常					
	I「妊娠の異常と看護」 A ハイリスク妊娠 B 妊娠期の感染症 C 妊娠疾患 D 多胎妊娠 E 妊娠持続期間の異常 F 異所性妊娠(子宮外妊娠)					
11・12	II「分娩の異常と看護」 A 産道の異常 B 娩出力の異常 C 胎児の異常による分娩障害 D 胎児の付属物の異常 E 胎児機能不全 F 分娩時の損傷 G 分娩第3期及び分娩直後の異常 H 分娩時異常出血 I 産科処置と産科手術					
13	IV「産褥の異常と看護」 A 子宮復古不全 B 産褥期の発熱 C 産褥血栓症 D 精神障害					
14	V「メンタルヘルスの問題をかかえる母親の支援」 A 妊娠・出産・育児への影響					
15	終講試験					
留意事項						

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験	担当氏名	時間数
				職種		
母性看護学援助論Ⅱ (正常な妊娠・分娩・産褥の看護、 ハイリスクな妊娠・分娩・産褥の看護)	1	2	後期	助産師	慈風会職員	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)		
○該当する ・ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%		
評価方法	筆記試験, 学修意欲, レポート			教科書・ 参考資料	母性看護学各論 /医学書院	
概要	母性並びに胎児、新生児に対して健康回復、安楽、安定した生活への援助ができるような能力を養う。 母子保健システムの利用に関する社会資源(人的・物的)の活用や健康教育を通して、母児とその家族の健康で幸福な生活を援助できる能力を養う。 自己の中の母性を認識し、健全な母性の形成発展のための生活を実践できる能力を養う。					
目標	1. 妊娠期における看護について理解できる 2. 分娩期における看護について理解できる 3. 新生児に対する看護について理解できる 4. 産褥期における看護について理解できる					
回数	授業内容・計画					
1	2章 出生前からのリプロダクティブ・ヘルスケア					
2	B 遺伝相談					
3	C 不妊治療と看護					
4	⑥出生前診断を受ける人への看護 ⑤不妊治療を受けている女性の心理・社会的特徴 ⑥不妊夫婦の看護 ⑦不妊治療によって妊娠した女性・家族の看護 ⑧不妊治療の終結に係わる看護					
5・6	3章 妊娠期における看護 B 「妊娠期の心理・社会的特性」 C 「妊婦と胎児のアセスメント」 D 「妊婦と家族の看護」					
7～9	4章 分娩期における看護 B ⑤産婦の心理 C 産婦・胎児、家族のアセスメント D 産婦と家族の看護 E 分娩期の看護の実際					
10	5章 新生児期における看護					
11	6章 産褥期における看護 A ②産褥期の心理・社会的変化 B 褥婦のアセスメント C 褥婦と家族の看護 D 施設退院後の看護					
12	7章 妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 G ハイリスク妊産婦の看護					
13	II 分娩の異常と看護 J 異常のある産婦の看護 K 異常分娩時の産婦の看護 L 分娩時異常出血のある産婦の看護					
14	IV産褥の異常と看護 E 異常のある褥婦の看護 Vメンタルヘルスの問題をかかえる母親の支援 B 治療及び看護					
15	終講試験					
留意事項						